

## 2015年度出題範囲（動物看護教育のコアカリキュラムに基づく）

キーワードは変更されることがありますので、必ず「動物看護師統一認定機構」のホームページでご確認ください。

| 分野            | 科目名      | キーワード                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 動物のからだの構造と機能  | 動物形態機能学  | 生体の成り立ち、ホメオスタシス、細胞の構造（染色体を含む）、組織、器官、臓器、皮膚、筋肉、骨格、脳、神経、感覚器、循環器、呼吸器、消化器、内分泌、ホルモン、生殖器、歯、血液、体液、尿の生成、代謝、免疫細胞、免疫機構、輸血と移植の免疫、動物種による免疫、6大栄養素、犬猫の基礎栄養、BCS評価、カロリー計算(RER、DER)、必要飲水量計算、嗜好性、疾病と栄養管理、ペットフードの取り扱い、動物種による繁殖、性周期、交配、妊娠、胎子の発達、分娩、帝王切開、産褥期 |
| 動物の疾病と予防、及び回復 | 動物病理学    | 発病のメカニズム、変性、化生、萎縮、肥大、過形成、浮腫、炎症、腫瘍                                                                                                                                                                                                      |
|               | 動物微生物学   | 細菌の分類と構造、細菌の増殖、感染と発症、抗菌薬と耐性                                                                                                                                                                                                            |
|               |          | ウイルスの分類と構造、ウイルスの培養と検出法、ウイルスの感染と発症                                                                                                                                                                                                      |
|               |          | 真菌の分類と構造、その他の微生物、滅菌と消毒、微生物学的検査と安全、バイオハザード                                                                                                                                                                                              |
|               | 動物感染症学   | 寄生虫と宿主、内部寄生虫、原虫、吸虫、条虫、線虫、外部寄生虫、節足動物、感染経路、ワクチン、犬猫に感染する微生物                                                                                                                                                                               |
|               | 公衆衛生学    | 公衆衛生と獣医療の関わり、公衆衛生と疾病との関わり、公衆衛生と環境との関わり、ズーノーシス、院内感染防御、滅菌法、防疫                                                                                                                                                                            |
|               | 動物薬理学    | 薬物作用とその機序、主要な薬剤の作用と臨床適用、薬物相互作用、薬物耐性、薬物アレルギー、副作用、中毒、                                                                                                                                                                                    |
| 動物の行動         | 動物行動学    | 動物の家畜化、犬と猫の生態、行動発達過程、行動の周期性、生得的行動、習得的行動、学習理論、動機付け、社会化、排泄、パピーケア、ハンドリング、ストレス、事故防止                                                                                                                                                        |
|               |          | 排泄問題、攻撃性、恐怖・不安                                                                                                                                                                                                                         |
| 動物関連法規        | 動物医療関連法規 | 獣医師法、獣医療法、狂犬病予防法、感染症法、動物の愛護及び管理に関する法律、家畜伝染予防法、鳥獣保護法、薬物関連法規、ペットフード安全法、身体障害者補助犬法、薬の保管、薬事法、向神経薬、麻薬、毒劇薬、ラムサール条約、CITES、社会人として知っておくべき法規（個人情報保護法など）                                                                                           |
| 人と動物の関係       | 動物人間関係学  | 人と動物の関係（HAB）、動物介在介入（AAIs）【動物介在活動（AAA）、動物介在療法（AAT）、動物介在教育（AAE）】                                                                                                                                                                         |
|               | 動物福祉論    | 生命倫理、獣医療倫理、5つの自由、インフォームドコンセント、安楽死、産業動物の福祉、実験動物の福祉                                                                                                                                                                                      |
| 動物の健康管理       | 動物飼養管理学  | エキゾチックアニマル（ウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットを含む）の生態と取り扱い、実験動物の役割、実験動物の主な種類、3R、産業動物の主な種類、農場HACCP、コンパニオンアニマル、グルーミング、野生動物の生息環境、絶滅危惧種の保全、外来生物、展示動物                                                                                                  |
| 動物看護の基礎       | 基礎動物看護学  | 動物看護学の成立と特徴、職業倫理、動物看護倫理、動物看護技術、動物看護モデル、動物看護計画、動物看護過程、動物看護記録、コミュニケーション、POMR、POS、SOAP、幼齢期の看護、哺育、幼齢期の予防接種、高齢期の看護、認知障害、グリーフケア、ペットロス、QOL、受付業務、受付、クライアントコミュニケーション、チーム動物医療、飼い主さんへの精神的な支え                                                      |
|               | 基礎動物看護技術 | 動物の健康管理、保定、体位変換、消毒法、バイタルサインの測定、痛みの評価法、グルーミング、爪切り、肛門嚢絞り、耳掃除、排泄援助、薬物の投与方法、経口、外用薬、吸引吸入法、注射法、排泄物の観察・確認、衛生・安全管理、感染予防、診療補助、輸液管理、シリンジの扱い、調剤、病床の準備・管理、救急救命処置技術、蘇生法、ショック、誤飲誤食、熱傷、熱中症、溺水、感電                                                      |
| 動物看護の実践       | 動物外科看護技術 | 手術関連業務、術前術後看護の基本、包帯法、電法、疼痛管理、リハビリテーション、輸液管理、褥瘡管理、麻酔・鎮痛、麻酔モニタリング、入院室の管理、周術期看護、手術室の管理、器具と機械の管理、手術着等の管理、皮膚・眼・粘膜の術前準備、術中看護、手術助手の役割、器具・機械出しの役割、術後管理、退院後の対応                                                                                  |
|               | 臨床検査学    | 検体処理、生体検査、検査機器の取り扱い、放射線の基礎知識、顕微鏡、血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診、細胞・真菌検査、皮膚検査、レントゲン検査、心電図検査、超音波検査、内視鏡検査、CT・MRI検査とは                                                                                                                                   |
|               | 動物栄養管理学  | 幼齢期の栄養管理、成長期の栄養管理、維持期の栄養管理、老齢期の栄養管理、妊娠・授乳期の栄養管理、動物（犬・猫）に食べさせてはいけない食物、特別療法食                                                                                                                                                             |
| 動物看護の実践的応用    | 応用動物看護学  | 疾病の予防に向けた看護、呼吸機能障害を持つ動物の看護、循環機能障害を持つ動物の看護、栄養摂取・代謝機能障害を持つ動物の看護、内部環境調節障害を持つ動物の看護、生体防御機能障害を持つ動物の看護、感覚機能障害を持つ動物の看護、神経・運動機能障害を持つ動物の看護、排泄機能障害を持つ動物の看護、繁殖機能障害を持つ動物の看護、担がん動物の看護、眼科疾患の看護、歯科疾患の看護                                                |